

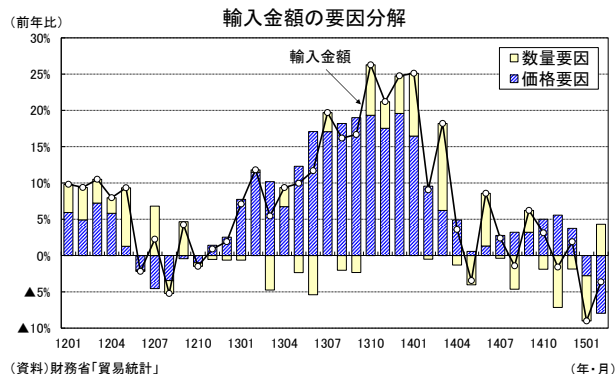
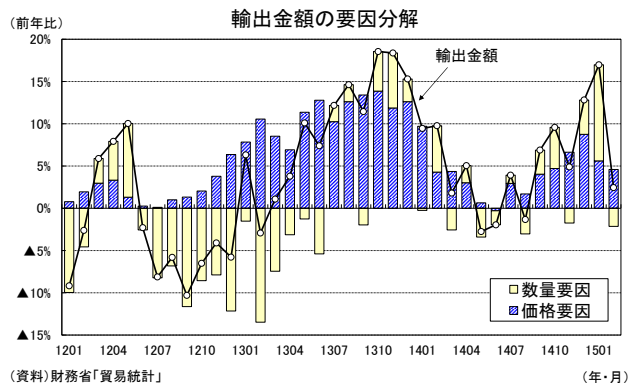
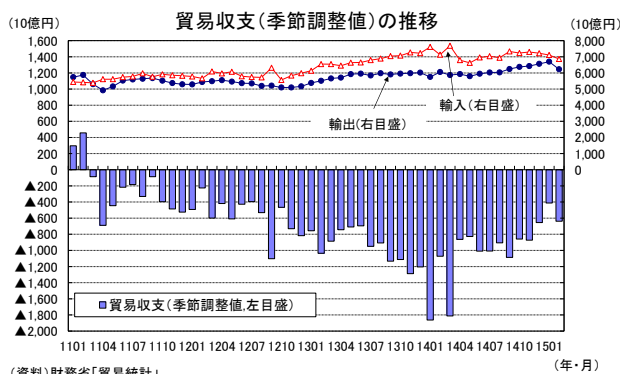
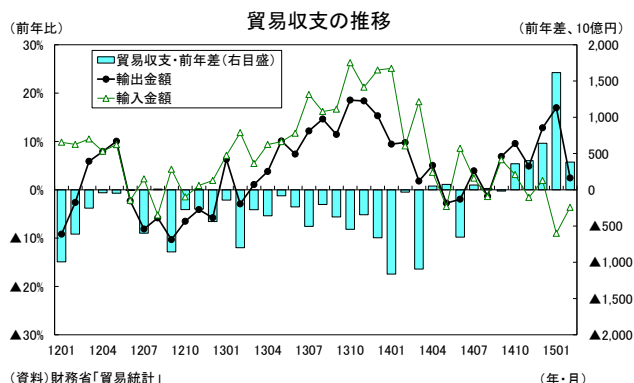
経済・金融 フラッシュ

貿易統計 15年2月～輸出の回復基調、貿易赤字の縮小傾向は継続

経済研究部 経済調査室長 齋藤 太郎
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易赤字の縮小傾向が続く

財務省が3月18日に公表した貿易統計によると、15年2月の貿易収支は▲4,246億円の赤字となったが、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲10,150億円、当社予想は▲5,973億円）を大きく下回った。輸出は前年比2.4%（1月：同17.0%）と前月から伸びが大きく鈍化したが、原油価格の下落を主因として輸入が前年比▲3.6%（1月：同▲9.0%）と2ヵ月連続で減少したため、貿易収支は前年に比べ3,815億円の改善となった。輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲2.1%（1月：同11.1%）、輸出価格が前年比4.7%（1月：同5.3%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比4.5%（1月：同▲6.3%）、輸入価格が前年比▲7.8%（1月：同▲2.9%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲6,388億円の赤字となり、1月の▲4,123億円から赤字幅が拡大した。輸出入ともに前月比で減少したが、輸出の減少幅（前月比▲7.0%）が輸入の減少幅（前月比▲3.4%）

を上回った。季節調整済の貿易赤字は3ヵ月ぶりに拡大したが、後述するように春節の時期のズレの影響で、輸出が1月に上振れ、2月に下振れしたことが大きい。15年1、2月の貿易赤字の平均(▲5,256億円)は14年12月(▲6,552億円)よりも小さく、基調としては貿易収支の改善傾向が続いている。

2. 輸出は回復基調を維持

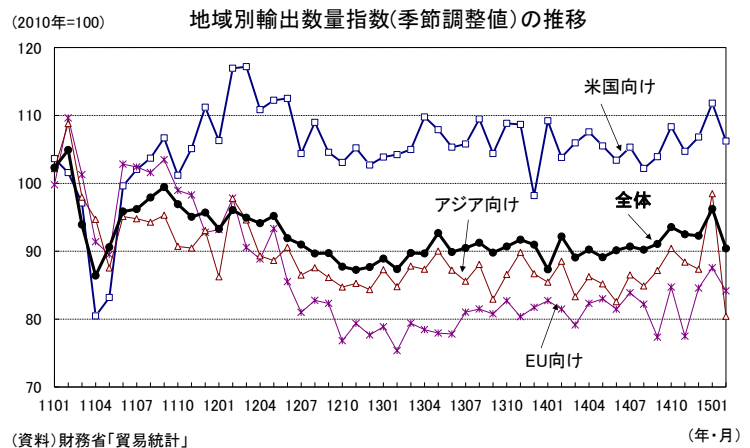
2月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比1.9%(1月:同2.9%)、EU向けが前年比3.3%(1月:同6.4%)、アジア向けが前年比▲3.4%(1月:同15.4%)となった。

季節調整値(当研究所による試算値)では、米国向けが前月比▲5.0%(1月:同4.7%)、EU向けが前月比▲3.9%(1月:同3.5%)、アジア向けが前月比▲18.3%(1月:同12.7%)、全体では前月比▲6.1%(1月:同4.3%)となった。

2月はいずれの地域向けも減少したが、1月に高い伸びとなった反動による部分も大きい。特にアジア向けについては、昨年は1月末に始まった春節が今年は2月下旬だったため、1月の輸出が大きく押し上げられる一方、2月はその反動で大きく落ち込んだ。中国向けの輸出数量は1月の前年比12.3%から2月に同▲22.7%と急速に落ち込んだ。

1、2月の輸出数量指数(季節調整値)の平均を10-12月期と比べると米国向けが2.2%、EU向けが4.4%、アジア向けが0.8%、全体では0.6%高くなっている。

均してみれば輸出は回復基調を維持していると判断される。



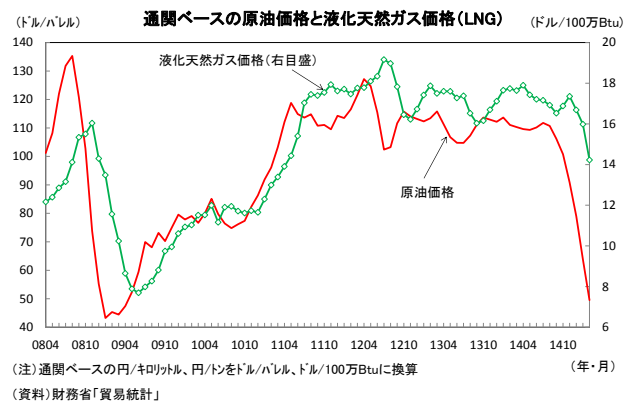
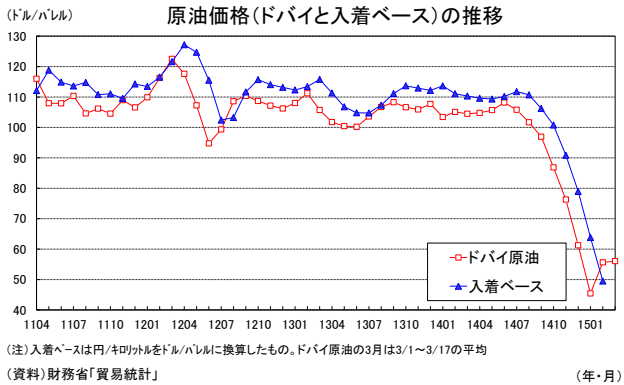
一方、2月の輸入数量指数(当研究所による季節調整値)は前月比6.0%(1月:同1.9%)と2ヵ月連続で上昇した。輸入は消費税率引き上げ後の国内景気の悪化から弱めの動きが続いてきたが、国内需要の持ち直しを反映し、ここにきて持ち直しの動きが明確となりつつある。

3. 貿易赤字はいったん解消へ

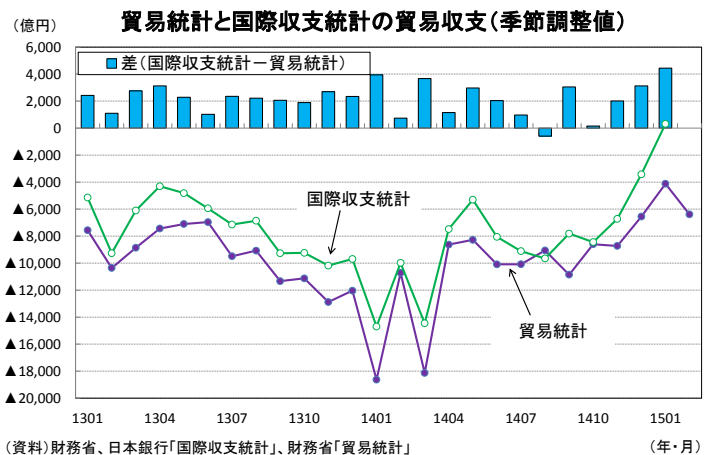
2月の通関(入着)ベースの原油価格は1バレル=49.5ドル(当研究所による試算値)となった。2月のドバイ原油は50ドル台半ばまで持ち直したため、運賃、保険料が含まれる通関ベースの原油価格は3月には50ドル台後半まで上昇することが見込まれる。原油価格(ドバイ)は50ドル台で一進一退の動きとなっており、原油の輸入価格は当面横這い圏で推移する可能性が高い。一方、調達価格が原油価格連動型の長期契約となっている液化天然ガス(LNG)の輸入価格は、既往の原油価格下落の影響が反映されることにより先行きも低下が見込まれる。輸入価格は全体としては弱含みの動きが続くだろう。

輸入価格の低下に加え、ここにきて輸出の回復基調が明確となっていることから、東日本大震災以降4年にわたって赤字を続けてきた貿易収支はいったん黒字に転換する可能性が高い。ただし、原油価格(ドバイ)は世界経済の回復に伴う需要の持ち直しや採算悪化を受けた生産量の抑制を背

景に先行きは上昇基調となる可能性が高い。また、輸入数量も国内需要の回復を受けて増加ペースが高まることが見込まれる。このため、貿易赤字はいったん解消するものの、そのまま貿易黒字が定着する可能性は低いだろう。



なお、「国際収支統計」の貿易収支(季節調整値)は、15年1月に317億円と小幅ながらも11年9月以来3年4ヵ月ぶりの黒字となったが、「貿易統計」の貿易収支は、評価建値、計上範囲、計上時期などの違いから「国際収支統計」の貿易収支よりも水準が低くなっている(15年1月の両者の乖離幅は4,440億円)。貿易統計ベースの貿易収支(季節調整値)が黒字に転換するのは15年度入り後となるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。